

急募



まずは
お電話下さい。
☎42-2941

屋久島葬祭

社員 【仕事内容】 葬祭アシスタント・生花販売 (要普通免許・AT可)
【時間】 午前8時30分～午後6時 (残業有り)
【月給】 165,000円～ (通勤・家族・残業・職務・技術などの各手当有)
【保険】 雇用保険・社会保険

パート 【仕事内容】 清掃・配達・接客など (要普通免許・AT可)
【時間】 一日パート 午前8時30分～午後6時
午前パート 午前8時30分～午後2時
午後パート 午後1時～午後6時
【時給】 850円～

アルバイト 前日に電話確認します。
あなたの都合のいい日に働けます。
【時給】 850円～

ギフトショップ オズ

社員 【仕事内容】 ギフト包装・接客・品出し
【時間】 午前10時～午後6時
【休日】 週休2日交代制 (祝日・祭日数回は出れる方)
【月給】 160,000円～ (通勤・残業・職務などの各手当有)
【保険】 雇用保険・社会保険

パート 【仕事内容】 ギフト包装・接客・品出し
【時間】 午前10時～午後6時
【休日】 交代制 (出勤日・出勤時間は相談に応じます)
【時給】 900円～ (交通費支給)

ひろひろ

三月一日、四男が高校を卒業した。車の免許を取得後、帰島と仕事を手伝ってもらった。正確にはアルバイトだけだ(笑)。若葉マークのついた車の助手席に座り、運転手の息子以上にひやひやしな乗っていた日々。そんな息子との幸せな時間はあっという間に流れ、旅立つ前日となった夕食後、息子を呼び勉強会をした。社会人としての最低限知っていてほしいことを伝えるために行った。まずは封筒に住所、名前を書かせた。慣れない人は必ず右に寄るから、書く位置から教えた。様と御中の違い、慶弔の際のお金の入れ方。ついでに収入印紙がいくらから必要かなど、業務的な事を教えた。次に「おつかれ様」と「ごきよう様」の違い。挨拶は相手の目を見て、言葉を伝えてから頭を下げる。下げた頭は一呼吸おいてゆっくり上げる。挨拶は歩きながらしないで、必ず止まる事。挨拶が9割印象を決めるから、一番大切なことだと念を入れて教えた。あとは、食事に誘われた際、必ず入口に座り、みんなの飲み物の減り具合だけを注意しておくこと。焼酎の割り方、お湯、水での違い。自分が食事することは考えない。たばこを吸ったり、携帯をいじったりはしない。おごって頂いたら、店外で一度、そしてまた会った時に必ずもう一度お礼を伝え、そして、必ず覚えておくこと。さらに、名刺交換の仕方に、テーブルでの置き方などなど。名刺入れを買うのを忘れていたので確認すると、卒業の際、担任の先生からプレゼントされたそう。「担任の先生、さすがだな」と驚かされた。そして最後に、コミュニケーションをとるために簡単にできる手品を二つ教えて、勉強会は終了した。平成31年3月26日、最後残っていた四男が人生の大きな一歩を踏み出した。あつという間に高校生活が終わってこの日を迎えたが、施工管理の建築系に進むとは思わなかったなとか、いろいろ振り返りながら港へ向かった。港に着くと、港の欄干に寄りかかるといちゃん姿。先に見送りに来てくれていたんだな。こんないちゃんの姿、何回見たものか、これで孫を見送るのは最後だなと、複雑な気持ちになった。数枚写真を撮り「行ってきます」の言葉を最後に乗船。

出発前にうなるジェットフォイルのエンジン音。満員のお客様を乗せ、ゆっくり離れる船。そんな船に手を上げて見送る、いろんな想いの人達。屋久島の山々に響くように、私達見送る人達の心にも響き渡った。

「あー行っちゃった」の一言だね、この瞬間。そして、船が見えなくなり、車へと歩き出した。いちゃん。杖を両方つきながら、ゆっくり一歩一歩進むいちゃんの姿。そんないちゃんと一緒に、同じ歩幅で支えながら歩けばあちゃんの姿。そんな二人の寂しそうな姿がそこにあった。子供、孫が旅立つ事は、嬉しいことだけどやっぱり寂しいもの。数年たったらまた会えるだろうけど。老いていく二人には長い長い時間になるのは確かだった。

振り返れば、四男は上の兄弟が怒られる姿を見てきたものだから、要領よく生きてきた。親に歯向かうこともなく、逆に親に気を遣い、人見知りでおとなしかった。子育て、思い出せば後悔しかない。もっともつと家族の時間を作ってあげればよかった。仕事柄、家族旅行には一度しか行けなかった。もっともつと写真をたくさん撮っていたらよかったな。写真一枚一枚は、何気ない時間、その時の姿がかけがえのない思い出となる。

親の姿はいつかは自分の姿。人生長いようで短い。最後、親として願う事。子供達いくつになっても仲良くしてほしい。そして、俺が人生を終える時、そんな子供達に見守られ、最後の瞬間、まぶたの中に家族の顔を残して眠りにつきたいと願う。

親の姿はいつかは自分の姿。人生長いようで短い。最後、親として願う事。子供達いくつになっても仲良くしてほしい。そして、俺が人生を終える時、そんな子供達に見守られ、最後の瞬間、まぶたの中に家族の顔を残して眠りにつきたいと願う。

